



早期発見・早期治療が重要です

# 受けて安心 がん検診

日本人の約3人に1人は、がんで亡くなっています。がんは進行して初めて症状が出る場合が多く、早期では症状が出ることはほとんどありません。

市では、5つのがん検診を行っています。早期発見と治療で治る可能性も高まります。

定期的ながん検診を受けましょう。  
詳しくは、年間保存版「保健だより」またはホームページをご覧ください。



ホームページ

## 受けて良かった！がん検診

49歳の時、勤務先のがん検診で0期の乳がんが見つかり、早期治療を受けることができました。

検診機会がない専業主婦の妹を乳がんで亡くしていることもあり、検診を受けることの大切さを痛感しています。

市民Aさん



市民Bさん

突然の出血で慌てて医療機関を受診しました。幸い、大腸がんではありませんでした。検診を受けていれば出血する前に治療ができたとのことでした。

何かあってからではなく、定期的ながん検診の受診が必要だと気づきました。



## 早期発見がカギ！ がん検診で健康を守ろう

がん検診を受けない主な理由は以下の通りです。あてはまる内容はありませんか？

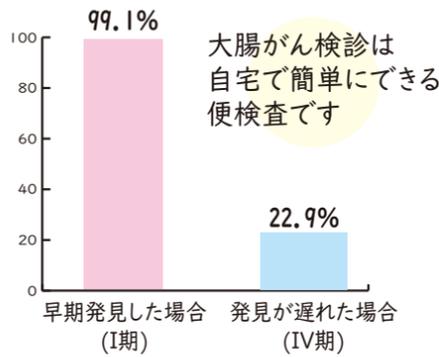
- 受ける時間がないから  
→ 半日あれば受けられる検査がほとんどです
- 健康に自信がある  
→ 誰でもがんにかかる可能性があります
- いつでも受診できるから  
→ がんの初期は気づかないものがほとんどです
- 費用がかかるから  
→ がん検診の一部を公費で負担しています
- がんだと分かるのが怖いから  
→ がんが進行する前に検診を受けましょう

※出典：内閣府「がん対策・たばこ対策に関する世論調査」

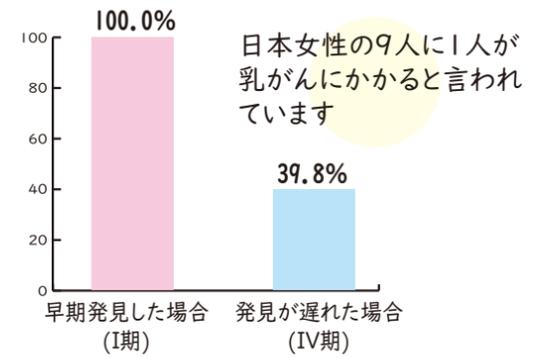
## がん検診のメリット

- 早期発見・早期治療による5年後の生存率は90%以上
  - がんで死亡するリスクが減る
  - 早期発見で治療による身体への負担が減る
  - 「異常なし」で安心感が得られる
- [注意] がん検診で必ずがんを見つけられるわけではありません。

大腸がんの5年相対生存率



乳がんの5年相対生存率



※出典：全がん協加盟施設における5年生存率 (2010～2012年診断例)

## 受けられるがん検診

乳がん・子宮頸がん検診は通年実施。胃・肺・大腸がん検診は5月～2月末までです。

胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	乳がん検診	子宮頸がん検診
①バリウム検査 ②内視鏡検査	胸部レントゲン検査	便潜血反応検査	①超音波検査 ②マンモグラフィ検査	細胞診
対象 ①40歳以上 ②50歳以上の偶数年齢 (4月1日時点)	対象 40歳以上	対象 40歳以上	対象 ①30～39歳 ②40歳以上の偶数年齢 ※いずれも女性	対象 20歳以上の偶数 年齢女性
費用 ①1,000円 ②2,000円	費用 0円 ( <small>かくたん</small> 喀痰検査が必要な方のみ500円)	費用 500円	費用 いずれも700円	費用 700円

## 受診方法

- 個別検診：各医療機関へ直接予約
- 集団検診：健康推進課へ要予約。二次元コードからも予約できます。



各医療機関



集団検診

症状がある場合や「要精密検査」となった場合は、必ず医療機関を受診しましょう。



健康推進課職員

## 次回の集団検診

- ◆ 胃・肺・大腸がん検診・結核健診・特定健診(国保)  
日時 3月10日(月)午前
- ◆ 乳がん・子宮がん検診  
日時 3月13日(木)午前・午後
- いずれも
- 場所 保健・福祉合同庁舎
- 予約 インターネット・電話・窓口で。定員になり次第締切
- ※70歳以上は無料。市民税非課税世帯・生活保護受給中の方は、事前申請により無料。